

不織布利用による半自動移植機植付け後のバレイショ出芽促進技術

背景・ねらい

加工用バレイショでは、近年大規模化の手段として、半自動移植機による植付面積が増加しつつある。しかし、この移植機体系では人力による芽出作業が省力化される反面、移植機のマルチ開孔によって地温が低下し、出芽や生育遅延が生じる。この対策としてため、植付後の不織布被覆が生育、収量へ及ぼす効果について検討する。



半自動移植機植付体系における地温確保のために、不織布被覆の効果を確認し普及に資する。

研究方法

○移植機植付後(2月上旬)～3月下旬に不織布をべたがけし、無被覆並びに慣行体系である芽出(出芽後にマルチ穴開け)体系と比較検討(平成24～26年度)

成果の内容・特徴

不織布を被覆することで

- ①平均地温は慣行芽出体系と同程度で、無被覆に比べ2.5℃程度の地温上昇効果
- ②出芽は無被覆に比べ早く、出芽揃いも良好で、初期生育が促進されことで草丈が長く、節数も増加する。
- ③収量は、無被覆に比べ高く、慣行の芽出体系と比べても遜色ない。



今後の展開

現状、不織布被覆は人力作業であり、植付時期における他作業との労力競合回避のため、被覆作業の機械化を検討予定